



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: MANKIND IS OUR BUSINESS

「ロータリー：人類が私たちの仕事」

2001～2002年度・国際ロータリーテーマ／リチャード D. キング会長

「ロータリーの心を伝えようー家庭に、職場に、地域にー」

2001～2002年度・東京新南ロータリークラブテーマ／大日方 真会長

本日の例会 10月12日 第720回例会
卓話 イニシエーションスピーチ
「エンジニアリング会社とERP」
東洋ビジネスエンジニアリング顧問 山根 一剛君
当クラブ会員

先週報告 10月5日 第719回例会 創立15周年記念例会

創立15周年記念例会ということで、「君が代」と「我等の生業」を歌うが、アメリカの同時テロの後でもあり、乾杯は自粛して中止。

◎会長報告

「2003-2004年度ガバナー・ノミニー確定宣言」

加来浩二地区ガバナーより、東京立川RCの鈴木正二氏が2003-2004年度当地区ガバナー・ノミニーに確定したことを宣言します、との報告がありました。

◎親睦委員会報告(圓谷委員)

11月7日(水)に相模原ゴルフクラブで親睦ゴルフ会が開催されます。参加希望者は10月19日までに事務局へお申し込み下さい。

◎国際奉仕委員会(島田委員長)

アメリカ同時テロへの弔慰金へのご協力有難うございました。91,000円集まりました。

◎会報委員会報告(小杉眞委員長)

当クラブのホームページができましたので、ぜひご覧になって下さい。E-mail等の方法が分からない方々にはホームページ立ち上委員長(村山)、副委員長(福島)がお教えしますので、遠慮なくご相談下さい。



10月5日/14件47,000円
2001～2002年度累計478,000円
多額の御寄付を有難うございました。

田辺賢三/クラブ創立15周年記念日を祝し。先日は誕生祝有難うございました。小杉修造/15周年記念例会おめでとう。土屋東一/15周年記念に乾杯。金光圭一/祝15周年記念例会。西澤正雄/15周年記念例会を祝って。吉田用親/お陰様で15年皆出席できました。これからも健康第一を心掛けます。馬場一廣/15年100%出席祝有難うございます。渡部一元/節目の誕生祝い、有難うございます。庄司泰典/誕生祝有難うございます。小杉眞史/勤続6年のご褒美を頂きました。当クラブのホームページがトライアル版ですが、オープンしました。ご活用下さい。入沢頼二/当クラブのホームページ立ちあがりました。ぜひ皆さんご覧下さい。時間も予算も厳しい中、小杉さん、村山さん、有難うございます。斎藤茂之/元気にやっております。荒木昭文/柴田陽三さん、こんにちは。柴田陽三/久しぶりのニコニコ担当です。15周年記念例会を祝して。

◎卓話

「『10年目の初心』と
ロータリーの動向」

元会長・チャーターメンバー

馬場 一廣



今日は創立15周年記念例会ですが、田辺さんは10周年記念例

会で「10年目の初心」という演題で「わがクラブ10周年にあたり、改めて『ロータリーの原点』に立ち戻ること、これを『10年目の初心』とすることを皆さんに訴えたい」と卓話された。ロータリー思想の原点ーそれは1915年に制定された「ロータリー職業道徳律」と同年RI思想及び教育委員会によって刊行されたガイ・ガンディガーの「ロータリー通解」にまとめられたロータリーの倫理思想であり、基本理念であるといわれている。

そこでRI・地区の最近の動向を、ロータリーの原点を基軸において観てみるとどうなるだろうか。

RIは世界の会員数が減少する中で、2005年のロータリー創立100周年までに会員数150万人を達成する目標をたて、そのため変わらなければならないとして、諸般の新しい取組や改訂をしてきている。2001年の規定審議会でも過去にない多い議案の審議がなされている。地区もRIの方針に沿ったメッセージをクラブに伝達してきている。

このようにRIも地区も厳しい現状を打開するため変化を求めている。どのような組織であれ、100年も同じであり得るわけもなく、現今のスピード時代にあってみれば、尚更のことである。だからRIや地区の変化を求める考えは、よく理解できるし、その努力は敬意を表するものである。

しかし、ロータリー・クラブから観ると「変わっていいこと」と「変わってはいけないこと」があるのではないのか。ロータリーの原点の思想は「変わってはいけない」「軽んじてはいけない」「捨ててはいけない」がロータリーの本質ではないのか。それなのに、RIや地区は変化を求めることに急であって、ロータリーの原点を確認し、推奨することがないように思われる。

このような中で「ロータリーの原点に戻ろう」とする当クラブは「15年目の試練」のときを迎えているということになる。どのようなクラブにするかは会員の総意と努力にかかっている。

◎慶事披露 誕生日祝い/渡部一元君(10月4日・古希)、庄司泰典君(10月11日)

100%出席祝/馬場一廣君、吉田用親君(15年)、小杉眞史君(6年)、石井謙次君(2年)

◎出席報告 会員70名・出席47名・欠席23名(出席規定免除者6名) ビジター1名

火曜会報告

参加者(敬称略・順不同)／本嶋、高須、庄司、清原、吉岡、小杉(眞)、鈴木(重)、鈴木(康)、大日方、新保、吉田(用)、武下、阪口、石井、加藤

毎月恒例の火曜会が10月2日午後6時よりアストラルにて行われた。今月は本嶋会員より「ロータリークラブとミッション経営」と言うテーマで話があった。まず、火曜会はクラブにとっても本人にとっても最も大切なロータリー活動であり、本嶋氏自身色々な面でこの会のお蔭で突破口が出来たとの話があり、本題となった。本嶋氏が慶応ビジネススクール時代に世話になった小野教授の「ミッション経営」に関する本に共感し、同教授主催の研究会に参加していた。そこで考えたことは、ある程度の規模の会社におけるミッション経営の一つのキーは、マネジメントが、言っていること(大義名分、ミッション)と行動に対して後ろめたさを感じないこと。この2つについて後ろめたさのないマネジメントは組織に対する影響・説得力が最も強くなる。同じような見方はロータリーのあり方そのものにもできる。職業奉仕などは、まさにロータリーの歴史を通じて吟味された完成に近い(後ろめたさがあるはずがない)ミッション(言っていること)で、4つのテストなどは後ろめたくない行動を目指すものである。このような意味で、ミッション経営はロータリーのありかたが会社経営に適用されたものであると言える。本嶋会員の話の後、全参加者がそれぞれの意見・コメントを述べて大変盛り上がりのある火曜会であった。(庄司 記)

10月定例理事会議事録

日 時：10月5日(金) 例会後 13:40～15:00

場 所：東京全日空ホテル 1F 孔雀

出席者(順不同・敬称略)：大日方、谷村、青野、村山、島田、吉田(用)、入沢、西澤、新保

[決議事項]

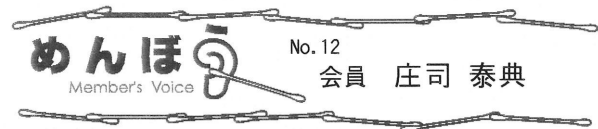
1. 第3回クラブ協議会(11/9)次第を承認。
2. ニューヨーク災害救援義援金ボックスを2001年9月28日より10月12日の例会まで設置し、募金額は2750地区口座へ送金することを承認。
3. 創立15周年記念行事・忘年家族会(12/14)予算案を承認。
4. 千代田グループIM開催の件、準備会議(9/27)の通り承認。
 - ① A,B,Cグループで開催/当クラブはCグループ(前年通り)
 - ② Cグループ・ホストクラブ：東京芝RC
 - ③ 開催時期・会場：2002年2月頃 学士会館
 - ④ 分科会テーマ：楽しくなるようなテーマを希望
5. 親睦ゴルフ会開催(11/7)を承認。

[報告事項]

1. 会長報告
 - ① 指名委員会報告：2002～2003年度理事候補者指名の件
 - ② 渡部一元君の休眠を認める。(細部は検討事項とする)
2. 幹事報告：出席規定免除の解除/圓谷正和君(9月14日)
3. 会計報告：9月末
4. 国際奉仕委員会報告：2003～2004年度R財団国際親善奨学生募集の件

お知らせ

「人物写真集米山梅吉翁 限定永久保存版」(18,000円)ができました。ご興味のある方は事務局までお問い合わせ下さい。



古都ウィーンとハプスブルグ家の崩壊

昨年に続き今年もウィーンを訪れる機会に恵まれた。貴族の館からモーツアルトが奏でるピアノの音が聞こえ、グラーベンの老舗をのぞけば、お忍びで買物にやってきたマリア・テレジアに出会える。石畳の街路をさまよい歩きながら、そんな幻想に私を浸らせてくれる街がウィーンである。

私の大好きなこの古都を語る時に歴史上忘れてはならないのは、この地に君臨しヨーロッパの政治と軍事面で約700年もの永きに渡って多大な影響力を行使したハプスブルグ家のことである。最後の皇帝となったフランツ・ヨーゼフと皇后エリザベート、そして心中事件を起こした息子ルドルフ皇太子、第一次世界大戦の勃発の主人公となったフランツ・フェルデナント大公等の名前が頭に浮かんでくる。彼等は皆ハプスブルグ家の崩壊までの悲しい歴史の証人である。特に皇太子ルドルフはハプスブルグ家崩壊過程の宮廷を象徴する存在であった。彼の心中事件については現在でも真相は謎とされているが、クロード・アネの小説「マイアリング」では相手の女性マリーベッツエラと伴に主人公となっている。この小説は1935年映画化され、ルドルフ皇太子役をシャルル・ボワイエ、マリー役をダニエル・ダリユーが演じ、日本では「うたかたの恋」と題して紹介され、好評を博した。オール映画ファンには忘れられない名作の一つである。

「マイアリング」はウィーン市街から30Km足らずのウィーンの森の南側にあり、今回私もこの地を訪れたが、常緑樹が枝をさしかわす、絵にもしたい程の美しい森である。昼なお暗い千年の老樹群は、この日(1889年1月30日)の2人の惨劇を目撃したのであり、梢(こずえ)を渡る風は今なお「うたかたの恋」を語ろうとするようであった。その10年後(1898年9月10日)に更に悲劇が襲った。エリザベート皇后がスイスのレマン湖畔で、イタリア人の無政府主義者ルキーニに刃物で刺されて絶命した。息子を亡くしたヨーゼフ皇帝は、後継に自分の甥に当たるフランツ・フェルデナント大公を指名したが、1914年6月28日愛妻のソフィア大公妃とサラエボを公式訪問した時に、セルビアの急進派の凶弾に倒れた。これが第一次世界大戦の引き金となった事件である。つまり第一次世界大戦は、ハプスブルグ帝国が直接の引き金になったと言っても良い。歴史にIfはないが、もし「マイアリング」の悲劇がなければ世界大戦は起きなかったかもしれない。歴史は偶然と運命の積み重ねのような気がする。そして1916年のヨーゼフ皇帝の死去により、ハプスブルグ帝国は崩壊するのである。第一次世界大戦の終結(1918年)前の崩壊であった。

しかしハプスブルグ家のおかげで、ウィーンではオペラや音楽の演奏会が毎日のように開催され、ウィーンは世界一の音楽の都となった。まさに人生は短し芸術は長しである。

次週予告 10月19日 第721回例会
卓話予定
「ロータリー財団の現状と将来」
2750地区ロータリー財団委員長 新藤 信之 氏
東京立川こぼしRC会員

東京新南ロータリークラブ [http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth]

【会長】大日方 眞 【副会長】谷村 義雄 【幹事】新保 國彦

【会報委員長】小杉 眞史 【今週の担当】圓谷 正和

事務局／〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h9.dion.ne.jp
例会日・例会場／毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111